

2010 年度受託研究概要報告

六甲山上における道標サイン整備のあり方に関する研究

研究メンバー

相澤孝司	デザイン学部プロダクトデザイン学科教授
曾和具之	デザイン学部プロダクトデザイン学科准教授
安森弘昌	先端芸術学部クラフト・美術学科准教授
林口哲也	デザイン学部プロダクトデザイン学科助手

委託者

六甲摩耶鉄道株式会社

研究概要

本研究は、プロダクトデザイン学科有志学生によるプロジェクトを結成して行われた。六甲山上地区に設置されているサインの現状調査を行い、学生たちの様々なアイデアから未来のサインを提案した。提案は、主に三部のコンセプトで構成されている。1- 六甲山未来サイン特区計画、2- ITを活用したサイン、3- 六甲山の自然をモチーフにしたサインである。現状及び過去の調査を含め、A1サイズ13枚のパネルにまとめ、六甲ヒルトップギャラリーにおいて展示した。

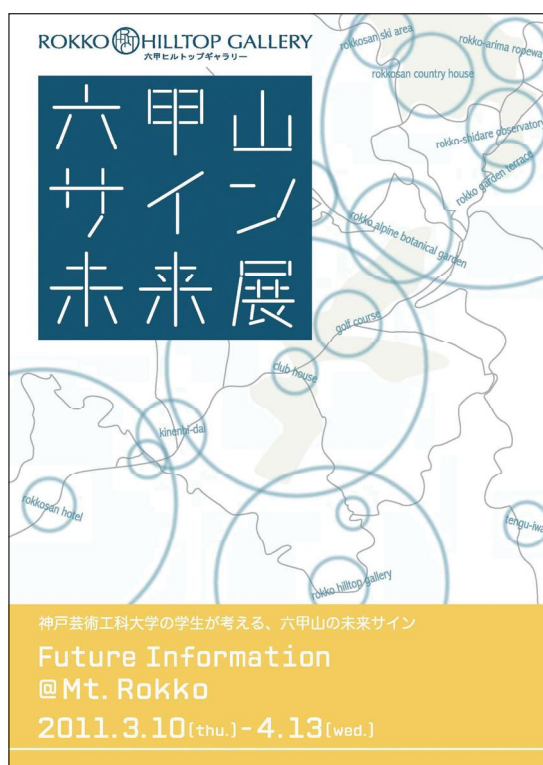


写真1 六甲山サイン未来展ポスター

研究成果

六甲山上地区の調査は、丁字ヶ辻～六甲山ホテル～記念碑台～六甲ケーブル山上駅～高山植物園～六甲ガーデンテラス周辺で行った。調査の結果、このエリアには道路標識、登山ルート、山荘案内、自然や歴史の紹介等多種多様のサインが乱立している。これらサイン・看板による情報の混乱、国立公園内における景観形成への影響が懸念されるなどの現状が明らかとなった。研究結果から、「必要な情報を必要とする人に提示する」ことを目的とし、六甲山の自然環境に配慮した近未来のサインを提案した。

未来サインの提案は、A1サイズ13枚のパネルにまとめた。はじめに、1- 六甲山サイン今昔。2- 六甲山サインの現在。第一部のコンセプトは、六甲山未来サイン特区計画、3- 未来サイン特区計画。4- 未来サイン特区。5- 未来サイン特別地区。第二部のコンセプトは、ITの活用を積極的に導入したサイン、6- サイン基地局。7- ポイントサイン。8- 未来一里塚。9- リアルタイム・ドキュメンテーション。10- 細やかな記録が六甲山の楽しみを変え。第三部のコンセプトは、六甲山の自然をモチーフとしたサイン、11- 六甲山の自然をモチーフに。強く、美しく。12- 歩く発見。つながる情報。最後に、13- つなげたい・・・未来へ。以上13枚のパネルは、「六甲山サイン未来展」と題して、2011年3月10日～4月13日まで、六甲ヒルトップギャラリーにおいて展示された。



写真2 六甲ヒルトップギャラリー展示風景